

令和2年7月23日

競技会参加時の新型コロナウイルス対策の具体的留意点について【改訂版】  
【競技役員向け】

空知陸上競技協会

【大会総務】

- ①新型コロナウイルスに関する状況を常に確認し、場合によっては開催地の自治体や、大会主催者等と協議の上、大会の開催・延期・中止等について検討する。
- ②競技役員と選手・顧問・指導者に対して、競技会1週間前からの検温を義務付け、指定の「新型コロナウイルス感染症についての体温管理チェックシート」を受付時に提出させる。  
※以下の事項に該当する場合は、参加を見合わせるように促すこと。
  - ・大会当日の検温で、37度を超える場合
  - ・体調がよくない場合（例：咳・咽頭痛などの症状がある場合）
  - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
  - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合※「体温管理チェックシート」については、当協会ホームページよりダウンロードして使用する。
- ③競技役員と選手の動線をできる限り分ける。
- ④大会前には、参加者および関係者に感染症拡大防止について周知する。（HPに「陸上競技活動再開についてのガイダンス」を掲載する）
- ⑤本部に消毒液、体温計を用意する。
- ⑥招集時間・方法等を工夫し、多くの選手が集まらない、密にならないようにする。
- ⑦会場アナウンスでコロナウィルス対策を積極的にアナウンスする。
- ⑧各審判長、各主任と協議しながら、来場者全ての方々の感染拡大防止に向け、臨機応変に競技会運営を行う。
- ⑨大会終了後2週間以内に、大会参加者の中から感染が確認された場合、保健所等と相談の上、個人情報保護に最大限配慮をしつつ、適切な情報開示、参加者との情報共有に努める。

【競技役員】

- ①状況により急遽競技会の中止・延期措置をとることもあるので、事前に当協会ホームページで確認する。または、審判委員長に電話で確認する。
- ②大会会場に入場する競技役員は、大会1週間前から「新型コロナウイルス感染症についての体温管理チェックシート」を記入し、大会当日、主催者に提出すること。  
※以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること。
  - ・大会当日の検温で、37度を超える場合

- ・体調がよくない場合（例：咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

※「体調管理チェックシート」については、当協会ホームページよりダウンロードして使用する。

- ③大会当日の検温で37度を超える場合、また体調が悪い（風邪症状などがある）場合は、審判業務をすることを見送る。
- ④競技役員は、参加チームの監督・顧問を中心として必要最小人数で行う。
- ⑤マスクを着用し、手洗い（特に、用器具に触れた場合）を励行する。
- ⑥密集や近距離での会話、大声での発声を避け、選手にも競技前に指導する。
- ⑦招集場所はスペースを広くとり、各選手の間隔をとる。
- ⑧滞在時間短縮のため、競技者紹介は簡略化する。
- ⑨競技終了後は、審判、選手ともに速やかに退場する。
- ⑩競技結果（記録）の掲示は行わず、競技終了後のアナウンスと当協会ホームページに掲載するのでそれを利用すること。ただし決勝ラウンドがある場合は、番組編成の掲示を行う。
- ⑪審判・選手への連絡等は、放送及びハンドマイクを使い周知徹底する。
- ⑫大会終了後2週間以内に、新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について連絡する。